



長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739
Nagano-prefectural Forestry Research Center
TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

マツモグリカイガラムシ

キ - ワ - ド : マツモグリカイガラムシ、マツ類、枝枯れ、吸汁性害虫

庭や公園のアカマツの枝が枯れてきたという相談が寄せられ、持ち込まれた被害枝をみると、マツモグリカイガラムシによる被害が多く確認されます。枝枯れの主な原因となるこの虫による被害について紹介します。

マツが枝枯れする原因

庭や公園などのマツが写真 - 1 のように小枝単位で枯れている場合、マツモグリカイガラムシによる被害が原因となっていることが多くみられます。他の原因としては、これまでに紹介した「葉枯性病害による被害 (24)」、「誤った剪定 (11)」、「除草剤による薬害 (34)」などがありますが、写真 - 2 のように枯れてきている枝がねじ曲がったようになっている場合は、マツモグリカイガラムシを疑ってみてください。



写真 - 1 枝枯れしたアカマツ

マツモグリカイガラムシ

マツモグリカイガラムシ成虫は、春 (5 月 ~ 6 月) と秋 (9 月 ~ 10 月) の年 2 回発生し、新梢の分枝基部などに白色の綿状物質に包まれた「卵のう」を形成し、春によく目にとまります。

「卵のう」内には、多数の黄色の卵がみられます。卵は、15 ~ 20 日前後でふ化し、ふ化した幼虫は卵のうから分散して針葉の基部、枝の表皮の割れ目などに移動して定着します。定着した幼虫



図 - 2 被害枝の変形成長 (フラッキング)

は、脱皮して紫がかったやや扁平な球形あるいは球形になり、枝の樹皮の割れ目などにもぐりこんで吸汁します（写真 - 3、4）。

成虫になると、褐色の洋梨形となり、盛んに移動し、新しい卵のうを形成します。



被害の特徴

被害を受けた枝は、奇形成長して枝が下垂したり、ねじれたりし（フラッキング）、旧葉の黄変や脱落が多くなります（写真 - 1）。枝の表面は、凸凹が多くなり、サメ肌状に荒れてきます（写真 - 5）。こうした枝の針葉基部などの白色綿状物質（卵のう）や枝にもぐりこんでいる幼虫あるいは脱皮殻がみられた場合、マツモグリカイガラムシの被害と判断されます（写真 - 3、4、5）。

なお、枝に白色の綿状の卵のうを形成する吸汁性害虫には、マツノカサアブラムシ、マツコナカイガラムシもみられますが、これらの種は、成虫、幼虫ともに活発に動き回るので、マツモグリカイガラムシと区別できます。

被害がひどくなると枝枯れが多くなり、また衰弱するため皮目枝枯病などの枝枯性病害にかかりやすくなります。

写真 - 3、4 マツモグリカイガラムシ幼虫



防除方法

春、秋の成虫発生期から、ふ化幼虫分散期にスプラサイド乳剤 1000 倍液を 10 日間隔で散布します。

ミニ技術情報 11 に紹介したような夏以降の誤った剪定を行うと樹勢を衰弱させ、病虫害の被害を受けやすくなるので注意してください。

担当者 育林部 岡田充弘